

第Ⅰ部 生徒発表

「一年間をふり返って」 1年生

私たちが取り組んだ活動の一つである、「他者紹介」について紹介します。

まず、1枚の紙に自分の好きなものを書き出します。

次にペアを作り、用紙を交換します。

そして、相手の好きなことについて、詳しく話を聞き、しっかりと理解します。

その後、相手がどういう人かをみんなに紹介するのです。

この取組を通じて、クラスの友だちの趣味や好きな物が分かりました。共通の趣味や興味のあることを話のネタにして、会話をするようにもなりました。

あるとき、クラスの一人が笑い出して、笑いが止まらなくなりました。それが周りにも伝染して、みんなが自然と笑顔になっていきました。その頃から、雰囲気はやわらかくなり、自然に話ができるようになりました。友だちを身近に感じられ、さまざまな活動を通して、クラスの雰囲気がよくなっていくのを感じました。

私は中学校時代、勉強が苦手です。まったく取り組もうとはしませんでした。新たな気持ちで、勉強をやり直したいと思い、間人分校を選びました。先生が分かりやすく教えてくれるので、今までできなかった分数の計算ができるようになりました。四年間は長いかもしれませんが、ゆったりとしていて、今は余裕さえ感じられるようになりました。

これからの学校生活を意味あるものにするために、どんなことでもみんなで力を合わせ、協力し合って取り組んでいこうと思います。

「企業見学と自分の生活をふり返って」 2年生 藤原優子

私たち2年生は、11月29日に3つの事業所に企業見学に行きました。見学先は、はごろも苑とエール峰山、タンゴ技研です。

はごろも苑には50の方が長期入所しておられ、そのうちの42人が女性だそうです。女性が大半を占めるということをはじめて知りました。

職員の方に「介護の仕事のやりがい」について、質問をしました。入居者とのふれあいの中で、喜んでもらい、「ありがとう。」と言ってもらおうと、ちょっとした一言でも、「とてもうれしい。」とおっしゃいました。



また、別の職員の方は、次のように話してくださいました。「長期入園の方と一緒に遊んだり、時にはけんかをしたりして、日々を送っていました。その方が亡くなられ、葬儀に行きましたが、そこでも、まだ一緒に話しているような感じがしたほどで、たくさんの思い出があります。」涙ながらに話される姿に胸を打たれました。

エール峰山は、休日になると 3000 人から 4000 人ものお客さんが来るそうです。店長さんに「仕事をしていて、大変なことは何ですか。」と質問をすると、「お客様からのクレームが、一番大変だ。」とおっしゃいました。客商売では当たり前のことかもしれませんが、本当にそうだろうと思います。自分がその立場になると、嫌になり、途中で逃げ出してしまふかもしれません。普段利用しているエールですが、目に見えないところで仕事をされていて、困難なことがいっぱいあることが分かり、とても勉強になりました。

タンゴ技研では、車などに使う小さな部品を作っていました。たくさんの工程があり、その一つ一つは実に細かな作業でした。自分は細かい作業が苦手なので、とても大変そうに見えました。それに夜勤もあり、自分には、あまり向いていないと思いました。職員の方は、高校生に求めることとして、規則を守ること、欠席や遅刻をしないことをあげました。普段の学校生活が、大切だと改めて感じました。そして、あいさつも大切だと言われました。私たちの学校では、あいさつをしない人もいます。なので、みんながあいさつをするように、自分から、積極的にあいさつをしようと思いました。

私は、将来保育士になりたいと思っています。小さいときからの夢であり、絶対にあきらめたくはありません。そのためにも勉強はもちろんのこと、あいさつをすること、また学校の規則を守ることも大切だと思っています。

今回の企業見学は、将来の夢とは少し違った内容のものでしたが、自分にとってはとてもいい経験になったと思います。今、あらためて、保育士という夢をあきらめることなく、追いかけて頑張っていきます。

「修学旅行の思い出」 3年 松尾陽介

私たちは、去年の 12 月に、2泊3日の沖縄修学旅行へ行きました。冬でも沖縄は暖かな気候で、私たちが住んでいる丹後とはずいぶん違いがあるのだと感じました。

1 日目に訪れたのは、「ひめゆりの塔」と「首里城」です。「ひめゆりの塔」では、平和への願いを込めて間人分校の生徒達でつくった千羽鶴を奉納して、施設を見学しました。事前学習で戦争について勉強をしていましたが、実際に訪れたことで、今自分たちが立っているこの場所でも戦闘が行



われ、私たちとかわらない年頃の人たちも犠牲になったのだということを実感しました。命の尊さと平和の大切さをあらためて考えました。

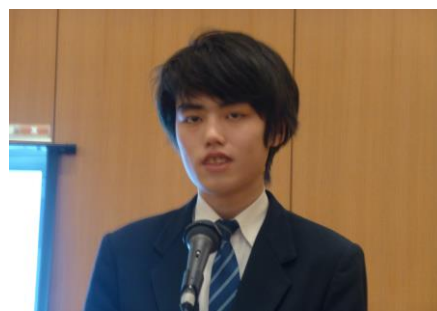
2日目は、「美ら海水族館」で沖縄の海に生息する色とりどりの生き物を見学したあと、本部町で「民家宿泊体験」をしました。「民家宿泊体験」とは、民家に泊めていただいて、実際の沖縄の暮らしを経験するものです。3つのグループに分かれて、さまざまな体験をさせていただきました。民家のお母さんと一緒に「サーターアンダギー」や「ちんすこう」をつくったり、広くて透き通った沖縄の海の浜辺で、落ちているきれいな貝殻やサンゴ礁をひろって、アクセサリーをつくったりしました。ここでは話しかれないほどのたくさんの思い出ができました。また、民家の人たちはみなさん温かく、心がいやされ、何だか元気になりました。

最終日、「民家宿泊体験」でお世話になった方たちと、別れなくてはならない時が来ました。短い時間でしたが本当の家族のように接してくれた家族の人たちと別れるのがつらくて、涙があふれてきました。沖縄の暮らしを体験するだけでなく、沖縄で暮らす人たちの心の温かさに触れることができ、とてもいい経験ができました。

修学旅行を通じて、沖縄の歴史について学び、平和の尊さを学習することができました。また、集団生活をとおして、今まで以上に仲良くなったクラスメイト達と、卒業までがんばっていきたいです。

「進路の実現」 4年 平井 健太

私は、中学1年生の5月頃から不登校でほとんど学校に行っておらず、週一回保健室登校をしていました。3年生の時には、受験のために勉強をした方が良いといわれ、授業が空いている先生に何度か保健室で勉強を教えてもらいました。しかし、先生方は忙しかった



ようで、なかなか学習は進みませんでした。受験当日はもともと得意だった漢字はできましたが、英語や数学はほとんどできませんでした。これではいけないという気持ちがあり、高校に入学したら頑張ろうと思っていました。

入学説明会の帰り道、小学校におられた技術職員さんに偶然出会い、話をしました。その方は退職後ご自宅のある網野の三津から間人まで健康のために歩いておられるということでした。「また顔も見たいし、体力もつくから自転車で通学してみないか？」と言われました。家から学校までは自転車で40分ほどかかりますが、中学生の時、ほとんど休んでいて体力がなかったので1年生の時はずっと金曜日だけ自転車通学をする事にしま

した。少しずつなれて疲れなくなってきましたが、それでも色々な事に疲れて1年生の時は時々学校を休んでいました。

授業に関しては、私は長い間教室で授業を受けていなかったのですが、教室でクラスメイトと共に授業を受けることが大変でした。でも、徐々に慣れていきました。授業の内容は小中学校の復習からのやり直しだったため、真面目に授業を受けるとだいたいのことはわかり、成績がかなり上がりました。

高校3年生の時、インターンシップでパン屋さんに行きました。アルバイト経験がないので、従業員の方とどうやってコミュニケーションを取ったらよいのかと行く前はとても不安でした。1日目が終わると、ほとんど立ちっぱなしだったため、すごく疲れました。3日間つとまるか心配になりました。しかし、従業員の方が親切に教えて下さったので頑張っってやり遂げることができました。ここでは仕事の大変さがわかりました。

いよいよ進路を決めるにあたって、私には高校卒業後すぐに就職するのは少し不安がありました。家族で相談したところ、父がコンピューター関係の学校に進学してはどうかとすすめてくれました。家で父の仕事関係の書類の作成の手伝いなどをしていたこともあり、コンピューター関係に進学することに決めました。しかし、経済的な理由もあって、最終的には家から通えて授業料の負担の少ない学校を受験することに決めました。

夏休みから進学に向けての面接練習が始まりました。私にとって一番大変だったことは大きな声で話すということでした。ふだん学校ではほとんど話さない私なので本当に苦労しました。また、入退室の仕方もなかなかうまくできずに、何度も何度もやり直しをして、練習しました。また、質問の受け答え、自分の考えを言葉にして伝えることが苦手なのでこれも非常に苦労しました。多くの先生方に面接官になっていただいて、何度も何度も面接練習を繰り返して、本番ではつまらずにうまく答えることができ、合格することができました。

3年生の終わりから自転車通学も週四回に増やし、次第に体力もつき、ほとんど欠席をする事がなくなりました。また、面接練習を積み重ねたおかげで、以前よりは自分の考えを言葉で伝えることができるようになったと思います。中学時代と違って、休まずに真面目に授業を受けたので勉強がとても良くわかるようになりました。

進学したら頑張っって資格を取り、将来の仕事につなげていきたいと思っています。

「進路の実現」 4年 稲岡俊哉

私は4月から調理師の見習いとして働きます。

中学時代の私は、授業の内容がわからなくて退屈になって



寝ることが多く、その結果授業についていけないという状況でした。どうせわからないというあきらめがあり、わからないから授業はつまらないと思っていましたが、同時にこのままではいけないという焦りもあり、せめて高校に入学したらしっかりと頑張らなければならないと思っていました。

間人分校に入学すると、授業は小中学校の内容の復習からゆっくりと丁寧に教えてもらったので、自分で理解できることも増え、「自分でも頑張れるんだ」と思い自信がついてきました。だから授業中に寝ることはなくなり、集中して真面目に授業を受けるようになりました。これを4年間続けてきました。

4年生になりいよいよ進路の実現に向けての取り組みが始まりました。私の場合ははっきりとした目標があったのでそれを実現するために頑張りました。私には調理師になりたいという夢がありました。

私が始めに料理に興味を持ったきっかけは、保育園児の時私の祖母が家で和え物を作っているのを見て面白そうだと思ったことです。それから目玉焼きのような簡単なものを作るようになりました。小6の時に、魚の3枚おろしを叔父に教えてもらい、上手にできたのが嬉しくて将来は調理の道に進みたいと思うようになりました。それから休みの日には昼食を自分で作って食べるようになりました。高校3年生の時に、調理の分野で就労体験をしました。このとき、自分の努力次第で調理の技術が向上することを実感しました。そして調理師になりたいという気持ちがしっかりと固まりました。

調理師になるには、専門学校に進学するという方法と就職して見習いとして修行する方法の2つがありますが、私は迷わず就職する方法を選びました。それは、4年間、夏に海の浜店でアルバイトをされていて、お客さんに「ありがとう」といってもらい、働くことの喜びを経験していたからです。

就職は簡単なことではありませんでした。私は漢字の読み書きがどちらかというと苦手なので、履歴書の文章を考えたり書いたりするのにとても苦労しました。何度も失敗を繰り返し、清書を仕上げるのには2時間以上もかかりました。また面接練習では、自分の考えを言葉にして伝えることが難しく、とても苦労しましたが、練習を積み重ねました。本番の面接はとても和やかな雰囲気で行われ、内定をいただくことができました。私は、これから修行を積んで一人前になり、ゆくゆくはお客様に喜んでもらえる店を出したいという夢を持っています。

間人分校での4年間で私は、嫌な事、苦手な事から逃げずにぶつかっていく「あきらめない力」を身に付けました。これから就職し、修行をする中でつらいことやめげそうになることもあると思いますが、諦めずに頑張って自分の夢を叶えたいと思っています。